

コンペティション委員会 2016 年活動報告

2016年11月吉日

コンペティション委員会

秋本番の季節となりましたが、皆様方にはご健勝のこととお慶び申し上げます。

コンペティション委員会の活動としては、季始めに委員会を開催して、今年度の活動内容を確認したところですが、今季シーズンの終わりにあたり、まとめの委員会を開催すべきところですが、諸般の状況により、今回は活動内容とその結果をまとめて、委員会としての報告にしたいと思います。

なお、これらの内容は、クラブ・メンバー各位および河合支配人始めクラブ・スタッフ全員の努力と活動により達成できたところであり、関係者の皆様に感謝申し上げます。

1. マンスリー競技

今年はマンスリー競技の内容を以下のように見直しました。

- (1) 競技参加費 2千円 → 1千円
- (2) 70歳以上 白ティール使用可
- (3) ハンディ・キャップの見直し（申請者）
- (4) OB時のプレイング4ティ 使用可

これにより昨年の延べ参加者数175人に比べ、16%増の203名（毎月平均29名）を達成することが出来ました。まだまだ参加者が少ない現状なので、今後更に「出場しやすいマンスリー競技」を目指す必要があるかと思えます。皆様のご理解とご協力をお願いします。

2. シニア・レディス競技

昨年のこの競技は、申込者5-6名で、すべて競技不成立となっていました。

今年はこの状況から脱するべく以下の見直しを実施しました。

- (1) 参加費2千円 → 1千円
- (2) ハンディ・キャップ見直し（申請者）
- (3) 白ティの位置の見直し

その結果、5月から9月まですべて15名以上の参加者があり（10月は残念ながら不成立）、所期の目標を達成することが出来ました。今後も更に参加しやすい環境づくりを進めます。

3. 研修競技

この競技も昨年は1回も競技成立しませんでした。今年5月から9月まで連続して8名以上の参加者があり、競技開催することができました。

参加しやすい研修競技として、ハンディ・キャップ制限の撤廃や、普通の競技では出来ないアドヴァイスやレッスンなどを可能として、プレーヤー相互のゴルフ・レベルの向上を目指す本来の研修会としての位置付けとしたことにより、参加者増加につながったと思えます。

4. 理事長杯・シニア・チャンピオン杯・クラブ・チャンピオン杯

理事長杯 参加者 17名
シニア・チャンピオン杯 参加者 8名
クラブ・チャンピオン杯 参加者 11名

特に、シニア・チャンピオンについては、やっと競技成立の8名の参加でした。従来からバック・ティからのプレーでしたが、来年以降は白ティからのプレーに変更することを検討する必要があるかと思えます。現状では参加する敷居が高いという意見があります。

5. 月曜杯・土曜杯

残念ながら今年度はすべて競技不成立でした。

これらの競技に限らず、一般のプレーでも当クラブでは一人のプレーヤーのエントリーが大変難しく、多くの人から何とかならないかという意見を多く聞きます。

ウィーク・デイはもとより、土日でも一人のエントリーが大変難しい現状です。

月曜杯・土曜杯については、競技としては最低8名の参加が必要となり、なかなか競技として成立することは難しいので、競技としての発想を転換して、競技ではなく「フリー・エントリー・プレー日」として、全日にわたり一人でもエントリーとプレー出来る仕組みを作り、クラブとしてプレーヤーを大切に考える方策を考えたい。

「一人ではエントリーは難しい」という冷たい電話対応をしないで、フリー・エントリー・メンバー表などを作成して、何日か前からプレーできる日と人をコーディネートする努力をするべきかと考えます（インターネットを活用すれば、大きな手間にはならない）。

6. 開場記念競技

当クラブは、開場46年の今年初めて記念となる開場記念競技を盛大に開催することが出来ました。参加者数は153名（メンバー：111名 ビジター：42名）のフル・エントリーでした。

- (1) 楽しめる競技として、ベストボールを選択するスクランブル・ホールの設定
- (2) ショート・ホールでのドライバー使用ワン・オン競技
- (3) 70歳以上の女性のためのピンク・ティ設定
- (4) 2カップ・ホールの設定
- (5) 競技終了後の表彰式開催・・・参加者の交流の場として盛り上がりを期待
- (6) 豪華賞品の用意

参加者からは、「楽しかった！」との意見が多く聞かれ、クラブ・スタッフの用意周到な準備・努力のお蔭で、大変有意義な大会になったことは、何よりでした。単なる競技ではなく、楽しい競技、参加者が積極的に盛り上がる交流の場となるように、50周年に向けて幸先の良いスタートとなったと思えます。

今回の開催は7月10日（日）の開催となりましたが、この時期は梅雨の真っ最中で、幸いにも今年は何とか天候に恵まれましたが、来年以降は開催時期を梅雨明けが期待できる7月20日以降に設定するなどの配慮が必要なのではと感じました。

また、ダブル・ペリア方式のハンデ設定では、どうしてもシングル・クラスのプレーヤーが上位入賞となりやすいことがあり、スコアカットなしのハンデ無制限方式を検討してはと思います。

7. 岐阜県クラブ対抗競技 8月24日(水) 於明智GC

当クラブの選手

吉村房雄・石田勲・山田進・田中章・鷺見勇晴・日置吉之

結果は、合計482ストロークで、全60チーム中22位タイの成績でした。

まずまずの結果でした。

コース設定が当クラブの選手に合っていたこともあり、15位程度に入れる実力があると感じました。

8. 中部インタークラブ競技 9月30日(金) 於岐阜関CC

当クラブの選手

吉村房雄・石田勲・山田進・田中章・永井要一郎・日置吉之

結果は、合計428ストロークで全45チーム中38位タイの成績でした。

コース設定が難しい中で、当クラブのチームは苦戦する大会でした。

当クラブとしても、40-50歳代のプレーヤーを育成して、7千ヤードを超えるコースでもスコアをまとめる選手育成が急務と感じました。どこのクラブでも共通の難しい課題ですが・・・。

クラブ対抗・インタークラブともに各クラブからは、クラブ関係者以外にも多くの応援団が来場して、盛り上げています。当クラブも関係者に周知して、来年以降は応援団を結成しては？と思うところがあります。

9. 委員会活動の反省

コンペティション委員会は、季始めに開催したところですが、その後は開催できなかったことを反省します。この報告書でそれに替えさせていただきます。

各委員の方々も、年間の競技計画は期初に配布されるパンフレットで明確になっているので、お忙しいところ、また遠方でしょうが、出来る限り計画的に自主的に、競技参加や立ち合いにご協力いただき、競技参加者の意見の聴取など競技内容の向上・見直しに積極的に参画されることを希望します。

以上

2017年第1回コンペティション委員会 議題(案)

2017年5月28日

1. クラブ競技の運営について・・・クラブ競技参加者を更に増加するには

- (1) シニア層や女性の参加者を更に増やすには
マンスリー競技へのインデックス・ハンディキャップ採用の検討
マンスリー競技でのピンク・ティ採用検討(65歳以上の女性)
シニア・チャンピオン選手権でのフロント・ティ使用検討
クラブ・チャンピオン競技の予選・決勝日程の見直し(4週→3週)
ストローク競技の代表としてスクラッチ競技の新設検討(年1回)
- (2) 研修競技・月曜杯・土曜杯・・・参加者が少なく競技不成立が多い現状(見直し必要)
競技ゴルファーの育成も1つの目標であったが、競技の位置づけの見直しを更に進める
競技とは別のフリーエントリー枠の検討
- (3) オープン競技の積極的開催拡大
スポンサーの確保が課題?
ダブルペリアを活用したオープン競技の拡大(参加費による賞品確保で運営は可能か?)

2. ハンディキャップ委員会・コース委員会との連携

- (1) JGAHDCP インデックスとスロープレーティングへの切り替えに対する対応検討
本クラブでの HDCP インデックスとスロープレーティングの採用検討
これにより、クラブ競技などで異なるティからプレーすることが可能となり(競技条件が変わっても平等なハンディキャップ制度)、競技に参加しやすい環境作りに役立つと考えられる。一方、カード入力や絶えず変動するハンディキャップの策定・周知など事務処理増大になる点があるが、競技参加者が延べ50・60名程度で、大きな負担になるとは考えられないので、実施方向で検討を進めたい。
- (2) 安全なコース運営とマナー向上対策
川やOBへのボールの転がり込み防止ネットの是非(4番右、14番左、15番右、16番左)
マンスリー競技の特別ルール・・・OB後の前進4打などの再確認(A・Bクラス)
ウォーター・ハザードの取り扱い確認(6番など)
プレー時間の短縮活動・・・ボールを打ったらクラブを持ったまますぐカートに乗る運動の徹底
グリーン周りのアプローチ、パットのプレー時間短縮
グリーンボールマークの手直し徹底
ローカル・ルール見直し(ボールにドロがついた時の処置、ボールが土中にめりこんだ時の処置など)

3. 今後の対外競技について…参加することによる鷲ヶ岳高原 GC の存在感は大きい

- (1) 岐阜県クラブ対抗競技…クラブ代表 6 名による団体戦（昨年は 6 0 チーム中 2 2 位タイ）
- (2) 中部インタークラブ競技…クラブ代表 6 名による団体戦（昨年は 4 5 チーム中 3 8 位タイ）
これらの競技への参加にはクラブとしてそれなりの出費が必要。また、出費に似合う成績を得るには選手の育成と強化にたえず留意する必要がある。選手達にはこれらの競技への出場に強い希望がある。
これらの競技はウィークデイに開催されるため、仕事や家庭環境により出場可能選手は限られる傾向にある。どのクラブも特に若手選手の確保に苦労している。
- (3) 選手育成と支援策…選手に選抜されるのは「あこがれ」
出場する経験と場慣れが必要…いろいろな対外試合を経験して精神面を強化
各種競技の紹介と勧誘（アマチュア各種大会、都市対抗競技、岐阜県振興基金競技など）
- (4) 監督の任命と任期
- (5) 選手の選抜方法（マンスリー競技の成績と今後の育成計画で監督と支配人で選抜）

4. コンペティション委員会の役割と今後の活動について

- (1) コンペティション委員会の位置付け
理事会の下部組織として、委員会活動の理事会への報告要望あり
委員会としての決定事項のまとめが必要
- (2) メンバーや競技参加者からの意見・要望をどのように取り上げるか？
- (3) コンペティション委員会がどこまで競技現場に立ち会い・参加できるか？
- (4) ゴルフ・ルール、マナーの周知徹底活動
特にカート道路付近に止まったボールの救済処置（ニアレスト・ポイントの決め方）、ウォーターハザードからの処置方法、修理地からの処置方法、アンプレアブルなど…簡単なルールの再徹底。
また、スロープレーの防止、ボールマークの補修、バンカーならしなどマナー向上
- (5) その他

以上

理事会への報告と提案

2017年6月5日

コンペティション委員会

1. 2016年活動内容報告

別紙「コンペティション委員会2016年活動報告」を参照下さい。

競技参加者はある程度増加しましたが、まだまだこれからの段階です。

参加しやすい競技・楽しめる競技への変革をキーワードとして、今後も取り組んでいきます。

2. 2017年活動目標・・・コンペティション委員会からの提案事項

(1) ハンディキャップ・インデックスの採用（ハンディキャップ委員会への提案）

- a. 異なるティからのプレーでも平等なハンディキャップ
- b. 柔軟なハンディキャップによる競技参加者増加期待（他クラブで増加実績例がある）
- c. その時の実力に近いハンディキャップとなり、競技者の「やる気」につながる
- d. 名誉ハンディキャップと競技ハンディキャップの両立
- e. 手間のかからないハンディキャップ設定手順・・・競技参加者主体の取り組み（100名？）
- f. ハンディキャップ委員会との連携と共同推進

(2) 参加しやすい競技への見直し（コース委員会への提案）

鷺ヶ岳のコースは距離は長くはないが、起伏やOBなど独特の難しさがある難コース。

上級者には何度挑戦しても飽きないコースだが、アベレージ・ゴルファーには出来たら回りたくないコースという意見となる。コースを大きく改造することは現実的に難しいが、クラブ競技としての設定をアベレージ・ゴルファー向けや高齢者向け、女性向けなど幅広いプレーヤー向けに設定することにより、参加しやすい競技への取り組みを進めたい。

また、ゴルフ人口の減少が見込まれる中、近隣の楽に回れて、いいスコアが出るとして人気のあるコースに対抗して、鷺ヶ岳のコース設定を時代に合わせて、誰にでも回りやすいコースとして見直し、集客力を向上させることにつなげたい。

提案内容

- a. 4番右、14番左、15番右、16番左のOBを廃止して1ペナ化＝特設ティから第3打
- b. 同上1ペナへの転がり込み防止ネット設置（1ペナの回避）
- c. 2番左、3番左＝グリーン手前の木1本の伐採（木が成長して必要以上に難しくしている）
- d. 4番フェアウェイ左の松の伐採とグリーン手前左の木の枝の剪定
- e. 13番シニア・レディス用にカート道路の前方にティを拡大新設
- f. 65歳以上の女性用のピンク・ティ設置、白ティ・女性用ティ位置の見直し

以上

平成29年度合同理事・委員会報告

開催日 平成29年6月6日

コンペティション委員会

1. コンペティション委員会より、別紙「理事会への報告と提案」により、2016年コンペティション委員会の活動内容と委員会としての提案内容を説明した。また、別紙2017年活動計画を説明した。
2. これにより、合同理事・委員会閉会后、コース委員会、ハンディキャップ委員会、コンペティション委員会がそれぞれ開催され、コンペティション委員会からの提案内容などが審議され、早い時期での結論が期待されている。
3. 一ノ本理事長（社長）からは、各委員会を有効に機能させたいとのことから、委員会の定例開催が指示され、偶数月の4, 6, 8, 10月開催が決定された。
また、各委員会の事務局として、河合支配人（ハンディキャップ委員会）、杉山副支配人（コンペティション委員会）、管理課の杉沢氏（コース委員会）が任命された。
更に、各委員会の規約の制定が指示された。
4. 更に、今まで年1回の開催であった合同理事・委員会も年2回の開催が決定された。
5. 新任委員任命案が提案された。

追記（コンペティション委員会から各委員への連絡事項）

- a. コンペティション委員会の名称を「競技委員会」に改称する件の検討願い
- b. 委員各位の負担減少を目的に、メール・郵便などでの「持ち回り委員会」の可否
メールがどの程度可能かどうか・・・各委員のアドレス有無の連絡願い
- c. 委員会として決定した事項に関しては、各委員は賛否にかかわらず実現に協力すること。
- d. 芝の育成が一番盛んな時期の現状として、全コースのフェアウエーの拡張を具体的を実施するため事務局と検討中。
- e. 8月お盆過ぎに委員会を開催する予定。

以上

2017年コンペティション委員会報告

2017年10月14日

コンペティション委員会

1. 2017年第1回委員会（2017年5月28日）

- (1) クラブ競技の運営・・・特に高齢者・女性の競技参加者を増やすには
- (2) 研修競技、土曜杯など競技内容の見直し
- (3) 公平なハンディキャップのあり方（異なるティからのプレー、女性ティからのプレー）
- (4) OB防止ネット（4番右、14番左、15番右、16番左）の是非
- (5) マンスリー競技のルール見直し（前進4打の特別ルールなど）
- (6) ローカル・ルールの定常化（ボールにドロ付着、土中にめり込んだボールの救済処置）
- (7) 対外競技について
- (8) コンペティション委員会の役割と今後の活動について
 - a. 委員会の役割・・・理事会への報告と提案
 - b. メンバーや競技参加者からの意見や要望をどのように取り上げるか？
 - c. 委員会として、どこまで競技現場に立ち会い・又は参加できるか？
 - d. 簡単なルールとマナーの再徹底

2. 2017年第2回委員会（2017年8月23日）

- (1) 競技参加者数の頭打ち
 - a. マンスリー競技30名をなかなか超えられない現状・・・もう一段の何かが必要
 - b. シニア・レディスは参加者が安定して増加して毎回競技成立
 - c. 研修競技も開催できる回数が増加して改善傾向
- (2) 競技規定・委員会規定の作成（理事長指示）
 - a. 明文化されていなかった当倶楽部の競技規定の制定（原案作成済）
 - b. 委員会規定の作成（骨子原案作成済）
 - c. 以上いずれも細部の検討が必要で、今年中に取りまとめる予定。
- (3) コース設定の見直しについて
 - a. 9番グリーン右のカート道路にボールが止まった時の処置見直し（ニアレスト・ポイントの適正化）
 - b. 各コースのラフとフェアウエーの見直し（特に夏季の芝繁茂時のプレーが難しくなる対策）
 - c. 2番、3番グリーン左の樹木伐採・・・コース委員会との協議になるが、結論は委員長一任

- d. 芝繁茂期のフェアウェー芝刈り・・・とてもフェアウェーとは言えない時がある
6 - 9月の時期の芝刈り強化・・・機械の老朽化？ 人手不足？ 2018年対策を希望
夏季の繁忙期に多く来場してくれるビジターに対して、好印象を与えることは大切

- (4) 平等・公平なるハンディキャップとは？・・・ゴルフだけに許された競技の基本となるハンディキャップとは
 - a. 新入会員のハンディキャップ・・・コースレイティング・スロープレイティング差の調整と成績による調整
 - b. ハンディキャップ・ポイントの明確化（スコアによる持ち点制度）・・・検討したい
 - c. クラブ競技優勝者の暫定ハンデ設定の可否（向こう1 - 2か月間の暫定ハンデ）
 - d. 白ティ、ゴールド・ティ、女性ティ使用時のハンディキャップのあり方（早期に決着必要）

(5) 委員会活動の活性化

- a. クラブ競技への参加又は立ち合い
コンペティション委員会の委員の何人かは競技に参加している。
コース委員会、ハンディキャップ委員会の委員の競技への参加又は立ち合いはここ数年皆無
メンバーとの意見交換、問題点把握には、競技への参加又は立ち合いが不可欠と考えます。
- b. 委員会の開催準備
よもやま話の委員会にならない事前準備・・・事務局との調整
委員会として具体的な提案の取りまとめ
各委員会との整合性のとれた取り組み
- c. 委員会活動報告の全会員への配布提案（年1回）・・・ホームページへの掲載 or 書類配布
各委員会の活動内容の周知と今後の取り組みなど現状理解
厳しい意見がある委員会活動への理解

(6) 2019年ゴルフ・ルール改正対応

2019年1月1日から実施予定のゴルフ・ルール大改正に対応して、当倶楽部では来年度より
新ルールの移行期間として1年前倒し試行、クラブ競技全体への適用を実施する。

なお、詳細なルール改正内容は未定な部分があるが、2018年初頭の判明内容で実施する。

3. 2017年第3回委員会（2017年10月14日）

コース委員会との調整

今シーズンに入ってコース設定を変更した事項に対する確認

樹木伐採に関する委員会としての結論

今後のコース設定に関する意見交換

以上